

（彼女の魔王ママに寝取られて躰けられるマゾオス）

（トラック①魔王の城の寝室）

（中・中）

（勇者と魔王の寝室で）

ふむ！

どうした

そこまで抵抗するな。

魔王の寝室に、

呼ばれて来たからには、

それなりの、

覚悟をしてきたのだろうか？

ふふっ、なにも、

我（われ）は、取って、

食おうというわけではない。

元勇者よ。

我はただ、娘婿である、

貴様のイチモツを、

味見させろと

言っているだけなのだ。

我は、

とても喜んでいるのだぞ？

我が魔王軍、

最大の脅威であった、

人類最強の勇者。

貴様が我が軍門に下り、

娘との縁談を受け入れたときに、

我は天にも昇るほどの

高揚感を得たものよ。

これで、

我の地上支配の
念願を阻むものは
いなくなったのだ。

しかも、ふふっ…

後継ぎ問題まで、

同時に解決できるとはな。

我ももう…

齢、四百歳を超える

地上を支配した後は、
魔王家業をやめて、
ゆっくり隠居生活でも
しようと思っておる

貴様に与えた我が娘は、
魔界でも一番の器量を持つているからな。

人類最強の

元勇者の貴様とならば、
必ず最強の魔王が
生まれることであろうよ。

（左・密着）

（ききやき声で）

ただし、

「あちら」のほうが
上手く行けば、だがな、ふふっ。

（中・中）

娘から、聞いているぞ？

貴様のイチモツの

戦闘レベルは、ふふっ、

スライム一匹も…倒せぬほど弱い

レベル」の雑魚であることをなあ…

娘との新婚初夜も、

前戯でずいぶん、

恥をさらしたそうではないか。

手でも口でも、ふふっ、

たったの一分も持たず、即敗北。

(ゆっくり馬鹿にしたように)

少しイチモツを

こすりつけられただけで

びゅーびゅー、びゅーびゅー

ふふっ、

子種汁をまき散らしながら、
ずいぶんと

哀れだったそうではないか。

そんな情けない粗相を

繰り返した後に、

やつのことで

娘まんに

挿入をしようとした瞬間に…

情けなく果ておつて…

随分と役立たずだったようだなあ

まったく、

貴様の「モノ」が…

これほど情けないとわな…

それもこれも、

貴様が、「童貞」であるからだな

魔界一の器量を持つ娘と、
童貞のちんぽザコ勇者では、
ずいぶん不釣り合いな、
つがいよ…

（ため息まじりに）
我ら魔族は長寿故に、
多少のまぐわいでは、
子を成すことはできん。

ましてや貴様のような
クソザコちんぽでは、
娘まんこを
孕ませることなど、
夢のまた夢であらう。

そ…こ…で…だ！

ふふっ、
言魔王である我が、
貴様のそのザコちんぽを
鍛えてくれる。

我も、
昔はサキユバスの真似事をして、
ずいぶん成らしたものであるからな。

貴様のその
クソザコちんぽのレベル上げに、
付き合ってやろう。

（舌打ち）
ん？なんだ？
ご不満か？

地上最強の勇者とも
言われる自分が、
ちんぼのザコを、
バカにされるなど、
耐えられるのか？

（中・近）

そこまで、いうのであれば…

（左・密着）

（ききやり声で）

そちらの聖剣でも

我を倒せるか、

証明してみるがいい。

我を倒したことがある勇者なら、
旬を過ぎた400歳の
劣化まんこになど、
すぐにでも勝てるだろう？

（中・近）

ほれ、かかってこい！

（オナニーをして挑発 8秒）

ふふっ。

どうした？

我がまんこ穴を晒し、
貴様の前で
マンズリを

キメてやっているのが、
そんなに恐ろしいのか？

我は最強の魔族で、
魔王であるぞ？

興奮したムレムレまんこ穴を晒し、
マンズリをキメても、
まったく、臆することなどないわ

（オナ声を入れながら）

ほーれ、

ほれほれー

（エロ喘ぎ声 5秒）

ふふ

指ちんぽを

三本いきなり出し入れしてー

ドスケベなまんこ穴に

ズボズボしながらー

ドスケベなマンコキ音で

貴様を挑発しておるぞ

ほれ、ほれ、

目の前でマンズリを

されて、挑発されておるぞー

ほれ、ほれ、

ほーーれ、ほーーれ

ほーら、

魔王様のおまんこは、
とーっても気持ちがいいぞ？

魔力を込めた、

キツキツチンコキ穴で、

貴様のその弱そうなザコ聖剣をー

ふふっ、締め付けてー、

破裂させるほどに

追い込んでやるぞ？

入れた瞬間に、
マグマのごとき暖かな蜜液（みつえき）が、
貴様のことを襲い

金玉の中で作った
ザーメンを全て搾り切り
貴様の子種を
すべて奪っていくぞ？

ほーら、
ほらほらー、

ふふっ。
どうだ？

嫁の母親の魔王である我と、
交わりたいであろう？

快楽をあますことなく
享受できる
魔王様の最恐穴であるぞ

貴様のザコ租チンであっても
空を飛ぶほどの快楽が、
約束されておるぞ。

ほれ、
ほれ、ほれー、ふらっ。

（舌打ち）
（復唱する感じで）
ふん

浮気はできませんと、
上っ面だけのことを言いよって
めんどうだのう

（中・密着）

それではほら、

目を見つめろ。

ほーほーら。

（中・近）

ふふっ、かかったな。

私の魅了の魔眼（まがん）。

普段の貴様だったら

魔法耐性スキルで

かかることはないが…

油断してしまえば

私の魔力で

操ることができる。

ほーれ、

私の長がくい尻尾を

貴様に巻き付けて

ふふっ、

うごけないであろう？

ほーら、

まずはイチモツを

拝ませてもらおうか。

ほら、

抵抗しても無駄だぞ？

ほら、ほら、ほら。

ん？

なんだこれは。

魔王の前で、

失礼ではないか！

下を向き、

小さいままなど、

魔王に対する

不敬であるぞ？

ほーら、

尻尾でちんぼ竿を

巻き付けてやって、

ほーらほら、

しこしこ、しこしこ

ほら！

早くちんぼを立てろ。

魔王様のまんに

しっかりちんぼ奉仕を

するために、

ガチガチ勃起にして、

早く我にそのちんぼを

味見させてみる。

ほら、

ほら、ほらー

（馬鹿にする感じで）

なんだ貴様、

このサイズは。

勇者ともあろうものが、

勃起しても

このサイズは頂けないな。

しかも、

皮余りの包茎ちんぼとは。

こんな、粗末なものを
娘にあてがってやったが…

役者違いも甚だしかったな

ふむ…

しかし、まあ

娘婿の事であるからな…

少しは

面目が経つように
してやらねばな。

ほーら、我の、

鋼鉄よりもかたーいしっぽの
先っぽで、

ちんぼの皮を

ほーら、むぎ、むぎ、むぎ。

ふむ、

一度も外界と接したことのない、
ピンク色のちんぼ亀頭、

ふふっ、

晒されて、

睨みつけられて、

ヒクヒクして、

ふふっ、いい恰好ではないか。

ほーら、それでは、

ちんぼ竿に巻き付けた

我のしっぽで、

シコ、シコ、

しこ、しこ

ごーし、

ごーしごーし

ほれほれ

どうした、こんなもので感じるか？

我はまだ、

単純な上下運動しか
しておらぬぞ？

それなのに腰を

突き出して、

ちんぽの先っぽを

パクパクさせて、

これは、いったいどうしたことだ？

まさか…

イク訳ではないよな？

世界最強の勇者様が

このような甘コキで

射精を、するわけないよなあ？

ほら、ヒクヒクちんぽ、

魔王の我に、

もっと、

抵抗できることを見せてしろ。

ほら、ほら、ほらー。

んゝ

おーおー？

ひくひくちんぽから…

ザコ射精…

なーに

射精をしているんだ？

まだ甘コキで射精など…
ずいぶんと

期待を外してくれる。

ふむ…

このような

レベルゼロのザコ粗チンなど、

我がいくら鍛えてやったところで、
どうにもならんぞ？

射精したばかりのちんぽ、
早く勃起させて、
次に備えろ。

我のしっぽを鞭にして、

(しっぽでちんぽを叩く)
ほれ、ほれ、ほれ。
立てろ、立てろ、立てろ。

娘の母親である、
魔王様に
粗相をしてしまったのだ。

せめて早く、
ちんぽ勃起をして、
我の期待を
裏切らないように
頑張って見せよ。

ほれ、ほれ、ほれ―

ふふっ。

我のしっぽ鞭に、
些末なザコちんぽを叩かれるたびに…
体をくの字にしてねじり、

ふふっ、

必死に耐えている貴様の顔、
なかなか素晴らしいぞ？

ほれ、

我の魔王まんこもほら、
マンズリで、

ズリズリ、ズリズリ、ズリズリ。

とてもいい音を立てて
興奮を

しているのが分かるだろう？

ふふっ、

我は根っからのサドだからな。

貴様が苦しむ顔、
苦痛に歪む顔で
マンズリオナニーなど
余裕だぞ？

ほら、ほら、ほらーふふっ。

(やや左・近)

しかし

なんだ貴様。
ちよーつと鞭で
叩いてやれば、

ふふっ、

先ほどよりも
ちんぽ興奮して
大きく硬くなっているのが
まるわかりであるぞ

（左・密着）

（ききやり声で）

ふふ

偉大な

我はわかっていたぞ？

貴様、マゾだな。

こーんな恥ずかしい

失態を犯したというのに、

攻められ、

捌られ、痛めつけられ、

それで恍惚の表情を

浮かべる真性のマゾ。

ふふっ、

人類最強の勇者様は、

クソザコの変態だったのだな。

ほら、

否定してみなければしてみろ。

（中・近）

貴様がもっと

情けなくなれるように、

ほら、ケツ穴に…

良いものをくれてやる…

我のしっぽを…

出し入れして…

ほーらほらほらー

ふふっ。

何をやっているのだ？

ケツ穴に、
魔族のしっぽちんぽを
ズボられてー

ふふっ、
嫌がっている振りをしながら、
ケツ穴で
ビクビク、ビクビク、
感じまくって

先ほどの小さい粗チンが
ふふっ、
天突き刺さるような
うわぞりになり
興奮しているのが丸わかりだぞ？

（中・近）
ほれ、ほれ、ほれー。

ほら、
貴様の体ごと尻尾で持ち上げてく

ほら、
我の体で抱きしめてやる。

（中・密着）
ほーら、
貴様のマゾちんぽ。
魔王様のまんこに、
ほーらこすりつけて
やってるぞ？

ほら、ほら、ほらーふふっ。

(ききやくき声で)

まだ、

娘とも一回も致したことない

童貞おちんぼ。

いたぶられ、捌られ、

そしてガチガチ勃起に

なってしまった童貞おちんぼ。

(中・近)

ほーら、

我にも味見をさせよ。

奪われるのではなく、

自ら望んで、

我のまんこ穴に

挿入してみろ、

ほら、ほら、ほらーふふっ。

(舌打ち)

ちい！

童貞だから

入れ方もわからぬか、

このクソザコめ！

ほーら、

我の魔王まんこ、

膣力で開いて、

貴様のちんぽを

食い尽くしてくれる。

ほーれっ！

ふふっ、あーあ、

魔王にまんこを開かれて、

童貞やちんぽを思いっきり

食べられてしまったなあ。

ほーら、

早く腰を動かさんか。

義母のまんこで

ちんぽを食べられて、

腰も振れぬなど、失礼であろう？

ほーら、魔王まんこ、

思いつきり締め付けて、

ちんぽを破裂させるくらい、

抑え込んでやっているぞ？

ほーら、

腰を振りたくても、

まん膣力が強すぎて、

腰が動かせないザコ勇者よ。

この愚か者が！

ほーら、

我が腰を動かし

食べつくしてくれる

ほーら

果てろ、果てろ、果てろ。

貴様の童貞卒業セックスは、

腰も動かせぬまま、

魔王に

蹂躪されるだけの、

残念敗北ゲームだ。

ほーら、

果て、ろっ！

ふふっ、おーおー、
射精だけは
いっちょ前ではないか。

娘の母親に…

ふふっ、

魔王のまんこ穴に、
いっちょ前に

大量のザーメンを
流し込みよってからに。

ほーら

ふふっ、

貴様の勇者精子、

魔王のまんこに

全て捕食されてしまったぞ？ふふっ。

なーに、

気にすることはない。

我ら魔族はこの程度で
孕んだりすることはないからな。

しっかりと

子宮を打ち抜き、

絶頂のうちに

子宮穴をひらかせ

子種を吐き出さん限りは、

絶対に

妊娠することは敵わぬ。

(左・密着)

(ぎゅぎゅき声で)

だから勇者よ。

貴様をしっかりと躡けて、
娘のまんこでも中出しできると言うように
レベルアップさせてやるからな。

しっかりと我に

食い尽くされぬように、

励むのだぞ？

勇者よ。

(左・遠)

(長いおたけび)

ふうー

はああはあああああああ

(トラック②間の儀式の部屋)

(中・中)

(勇者を拘束し縛る)

ふむ、

まだ、抵抗しているのか？

魔力耐性が

高すぎるというのも考え物だな。

早く我の力を受け入れ、

その粗末な

愚息を育てる気はないのか？

ほーらほら、

ふふっ、

数日間、四肢を拘束され、

我の魔術結界の中で、

抗い続けるのには

限界があるであろう？

ほーら、

私の強大な魔力を、

貴様のそまつな

ちんぽに流し込んで

レベルアップの手伝いを

してやっているのだ。

早く受け入れよ

それとも

勇者様は、

魔族の魔力を受け入れるのに

抵抗があるのか？

ふむ…

そーんなそまつな

そちんのくせに生意気なやつだ

(やや右・近)

ほーら、

もっと落ちられるように、

耳を舐めつけてくれる。

(右・密着)

(ききやき声で)

(耳フェラ 5秒)

(耳舐めしながら)

ほーら、

私を受け入れろ、受け入れろ。

貴様のその小さなイチモツを

私の魔力で強化して、

一人前のオスに育ててやろうぞ？

ほーれほれ、ほーれほれー、

(耳フェラ 5秒)

ふふっ。

我の魔力はすごいんだぞ？

ちんぼ竿にー

ふふっ、

我の力を持ったデカデカちんぼ、

強くて破壊力も満点のー、ふふっ、

魔界一のつよつよちんぼになれるのだ。

ほーら、耳を舐めながらー、

強くなつたちんぼでー、

我のほら、股間にー、ふふっ、

ズブズブ、ズブズブ、ズブズブ、

蹂躪したいであろう？

魔王のこのクソビッチなつよつよまんこに、

ガチガチのおちんぼ出し入れして、

魔王まんこを打ち倒したいのであろう？

ほーらだからー、

受け入れろ、

受け入れろ。

我の魔力を受け入れろー

ふふっ。

ふむ、体だけは

ビクビク痙攣しているくせに…

もう一歩というところだな。

ほーら、

逆の耳を舐めつけながらー

小さなちんぽを、

魔王のつよつよ握力で握り込んだく
キツキツ手コキ穴で

ほーらほーら、

ほーらほーら、ふふっ。

貴様のちんぽ、

小さいけれどー、

我のガチガチに握り込んだ拳穴でく
さらに小さく圧縮され、

上下にゴシゴシ、ゴシゴシ、

ゴシゴシされてしまっているぞ？

耳を舐めつけながらく

こーんなつよつよ握力手コキで

ごしごしされつづけると

ちんぽが潰れてー、

消滅されてしまうぞ？

いかに小さく惨めなものと言えども、
まだ使いたいであろう？

ほーら、シコシコ、

シコシコ、シコシコく

よく聞け

この粗末な一物を

我の魔力で

しっかりと進化できるように、
施しをくれてやる。

我の魔力で、

この小さなちんぽが、

魔界一のつよつよちんぽになれるように、

ふふっ、我の魔力を恵んでやる。

（迫るような感じで）

ほーら、

だから受け入れろ、

受け入れろ、受け入れろー。

（やや右・近）

ふむ、

こんな小さななりだというのに、

まだ抵抗するか…

（中・近）

それではほーら、

ちんぽを握り込んでー、

逆の手で金玉を押しこめつけて、

ほーら

ゴリゴリ、ゴリゴリ、ゴリゴリ、

魔王の爪を立てられながら、

ちんぽ金玉痛くされて、

竿をほら、

ゴシゴシ、ゴシゴシ、ゴシゴシー、

いたぶりつくしてやっているぞ？

ほーら、

こんな風に痛めつけられて、

見下されるだけでは、

貴様の愚息も満足しないであろう？

早く我の魔力を受け入れ、

つよつよちんぽになってー

我のまんこを倒してみろ。

（やや左・近）

ほーらほら、ほーらほらー、

強いちんぽになったら、

魔王の最強穴でしーかり、

ちんぽこ交尾を楽しめるのだぞ

（左・密着）

（ぎゅぎゅき声で）

我のまんこは、

ものすごく気持ちいいぞ？

ガチガチちんぽで、

キッツーい魔王のスケベまんこを、

ズボズボ使うと、

とっても気持ちが良いのだぞ？

我のヌレヌレヒクヒクの

おまんこ穴にー、ふふっ、

ガチガチちんぽを出し入れしてー、

気持ちよくなったら、

ちんぽ金玉上げて、

竿からびゅーびゅーびゅーびゅー、

種付け射精したいであろう？

ふふっ、

嫁の母親のまんこ穴に

中出しをキメて子作りなど、

なかなかエロティックで

素晴らしいではないか。

だからほら、この粗末なちんぽ、

早くおさらばできるようにー

受け取れ、

我の魔力を。

受け入れよ

ほーら、ほら、ほらー。

(中・近)

ふふっ、

わかつているぞ？

貴様は攻められれば

攻められるほど

弱くなって感じてしまうマゾだからな。

我がほら、

本気でこうやって

握力を強くしてゝ

ちんぽ金玉潰す勢いで

攻め切ってくれる。

ほら、選べ。

貴様の金玉もちんぽ竿も、

魔王の私の攻撃力で、

決壊寸前だ。

今すぐねじ切られ、

クズゴミになるかー

ふふっ、

魔王のまんこを打ち倒す

つよちんぽになるか、選ばせてやる。

ほーらほらほらー

ふむ、

そこまで、強情とはな…

よいだろう、

そこまで強情を張りたいのであれば
選ばしてくれる

もし、我の責めに

耐えきれず射精をしたら、

我の魔力をその粗末な物に全力で、
たたきこんでくれる

しかし…

もし、受け入れず

射精すらできない、廃棄物の一物であれば…
魔王の威信にかけてねじ切ってくれる

ほら出せ、

ほら出せ、ほら出せ。

出さねば廃棄、男として、
人として終わりを迎えるぞ？

その惨めなちゃんぽは
ねじり切り、

犬のエサにでもしてくれるわ。

ほら出せ、

ほら出せ、ほら出せ。

出さねば

わかっているな？

ほらいけ、

ほらいけ、ほーらいっけ！

（怒りながら）
出さぬか！

この無礼ものが！

おーおーおー

ふふっ、

相変わらず

粗末なものなのに、

射精だけは一人前ではないか。

さすが勇者だ。

そーら、

我の魔力を受け取れ。

ほーれっ！

（呆れた感じで）

ふむ、なんだこれは。

いくらなんだって、

これはないな

魔力耐性が強すぎて、

我の魔力をはじき出し、

ふふっ、

もとより粗末なものが、

さらに粗末になりおって。

これではもう、

男として見れぬではないか。

このようなままでは、婿養子のまま、
置いておくわけにはいかな。

我もそれなりの
対応をするからな
覚悟するのだぞ、勇者よ。

（トラック③箱化調教の拷問室）

（勇者を箱化させて責めている）

（中・近）

ほら、どうだ？
加減は。

人間界にも
あるのだろうか？
ふふっ。

「箱化の魔法」というものが。

もちろん我も使える、
ふふっ。

人間や魔族の体を改変させ、
箱に閉じ込め、ふふっ、
哀れな姿にする禁忌の魔法。

ほーら、
箱になって数日経つが、
気分はどうだ？

哀れだなあゝ

自分では一切身動きが取れず
糞尿を垂れながし、
主人の気まぐれで、
痛めつけられるの、
哀れな鑑賞用オブジェ

ほーら、

今日もいたぶってやる

ケツ穴に指を突っ込んでく

ズーリズリ、

ズーリズリ、ズーリズリ

うふ、

ケツ穴をびくびくさせながら

感じているのか？

そのついでにどうするか、

分からないような粗末なものが

反応しているのがわかるぞ

数日の間、

我が与える以外の

刺激はすべて

シャツトダウンされ

いたぶられ

痛みも苦しみも

情けなきも

恥辱も…

全て受け止めることしかできない…

貴様は、

快楽を享受する、

ただの箱オナホだ。

ほーれほれ、

ほーれほれー、

ふふっ。

ケツ穴を指でゴシ付けてやるとく

ピクピク、
ピクピク、ピクピクー

ふふっ。

小さくなり果てた
粗チンを
プルプル震わせて、
情けない奴だ

ほーら、

もう、イキたいのであろう？

毎日毎日ケツ穴をほじられ、
快楽のことしか
考えられなくなっているからな

生きている意味も
わからなくなるほどの
絶望感を与えられて、
それで貴様ほら、
逃げることができないのだ。

ふふっ、
それもこれも、
貴様のこのちんぽが悪いのだぞ？

知っているぞ？

我が娘とも、
その小さいちんぽで
まぐわいをしようとしたらしいな。

童貞を嫁の母親に食い尽くされ、
それでも操を立てるために、
ふふっ、勇敢に挑んだというのに、
結果は惨敗だったそうではないか。

（左・密着）

（きき声で）

娘のまんこも使えない、
粗末なザコオスは、
こうやって
箱オナホにされて、
お仕置きであるぞ？

（中・近）

ほーれほれほれー、
ふふっ。
なあ、わかるか・

貴様が、射精するたびに
勇者の神格が、
だんだんとこぼれ落ちていることに…

空になった貴様の体に

我が魔力を流し込んで、
立派に魔人として、
改造してやる

今度は失敗などせぬように、
我も全力を尽くすからな。

だからほら、
今の貴様は、
ほーらほら、
ケツ穴を掘られてー、

ふふっ、
ちんぽを触ってももらえぬのに、
びゅーびゅーびゅーびゅー
メスイキをすることしかできない
憐れなちんぽ絞り人形だ。

情けなさど悔しきで、
屈辱感を味わいながら、
それで果てるがいい。

（左・密着）

ほーいけ、
ほーいけ、ほーいけ。

ケツ穴のここが良いのであろう？

オスだと誰も

逆らうことができない、
前立腺の精子搾精工場の裏側。

ここをゴシつけられると、

ほーら出る、
ほーら出る、ほーら出る。

ちんぽを一切触つてないのに、
情けないお漏らし射精、
ほーら、

我がしつかり凝視してやっているから、
ほーら出せ、
ほーら出せ、
ほーら出せ、
ほーら出せ、

果てろ。

（中・密着）

（激しいフェラ）
ほーら、

我がその粗末なちんぽを
口で啜え込んで、

ほら果てろ、
ほら果てろ、出せ。

（フェラ 10秒）

（激しいフェラをしながら）

魔王様の

口まんこの中で、

精をぶちまけろ

ほーら、

だ、せつ！

（口内中出しされる）

んん、んん、

ふふっ。

出された瞬間に、

魔王の本気口しゃぶりで、

ちんぽ金玉に

残ったザーメンも

ぜーんぶ頂かれてしまったなー

（精子を飲む音 5秒）

ふふっ。

なかなか美味ではないか。

腐っても勇者、

魔力満点の精子は、

我が寿命を

延ばすのにもちょうどいいわ。

それでは、

少々お返しを

くれてやらねば行かんからな。

(中・中)

ほーら、

箱オナホ。

(息を吐きながら魔力でちんぽを生やす)
んんふううううう！

我のほら、

魔王様の

立派なイチモツを見るがよい

なんだ？

この前見たときにはなかった

デカちんぽが、

目の前に現れて、ビビっているのか？

ふふっ。

我は魔王ぞ。

ちんぽの一本や二本など
生やせなくてどうする。

ほーら、

貴様のこのヒクヒク痙攣してー

ふふっ、

イキまくっているオス穴に、
我のイチモツをくれてやる。

今の貴様は、

ただの性処理オナホだからな。
魔王の我のちんぽに
しっかりと媚びて、

我の性処理穴に成り果てよ

(中・近)

ほーら行く、

ほーら行く、ほーら行くぞ？

ふふっ、

我ももう、

しっかり興奮しておる。

人類最強の勇者を

このような箱肉人形に貶め、

ふふっ、

娘の愛しているオスを、

我がイチモツで汚し切るなど、

興奮がやまぬわ。

ほーれ、入る…ぞっ！

(うれしそうに感じながら読む)

おおっ！

ふふふふっ。

何だこれは、

なんだこれは。

ほら、我のイチモツが、

ビンビンに

反応してしまっているではないかゝ

この我のちんぽの高ぶり、

ふふっ、

ここ数百年、

無かったほどに興奮して、

ガチガチ勃起

ひと付ごとに、

肥大化しながら

このケツ穴のことを

使っているぞ。

我のちんぽ、
ガチガチフル勃起してく
上向きになって、

ああ、
ふうふう、
ふうふう！
ふうふう！
う

鉄よりも
硬くなっているというのに、
貴様のケツ穴は、
ああ、

まるで飢えたサキュバスのように、
チューチューチューチュー
ちんぽを咥え込んで、
すっかり離さぬではないか。

ほーら
箱オナホに手をかけ、
腰をへこへこ動かしながら、
ほら、ほら、ほら、

どうだ、
貴様の弱いところ。

オス穴のスポットに
魔王様の
デカちんぽこすりつけて、
ほれ、ほれ、ほれ。

おお、
ちんぽが気持ちよすぎるではないか。

魔王の

我を籠絡しようなどと、
こすいやつだ

貴様、

ちんぽはゝ

クソザコすぎて、

レベルがゼロのくせに、

ケツ穴は、おおゝ、

我を感じさせるほど

甘美なスケベ穴など、

こんなので

男をやっているなど、

おかしいのではないか？

ほーら、

ケツオナホ、

ケツオナホ、ケツオナホ。

我の

デカデカガチガチ魔族ちんぽで、
しっかりと壊されろよ。

貴様のケツ穴は、

我のこのガチガチ勃起したちんぽで、
ほーら出し入れすると、
おおゝ、

我も全身が

震えるほどに気持ちいい。

腰を動かす動作が止められぬ。

貴様のケツ穴で、

心底感じてしまって…

我のちんぽ出し入れが、
止まらぬではないか。

おおゝ

我のことを感じさせるなど、
罪深きケツ穴よ。

ほれ、ほれ、ほれ。

だんだん私の突き上げが
強くなっていくぞ？

逃げることを

許されぬケツ穴を、
好き勝手に

使っているぞ。

ほーらほらほーら。

出すぞ、出すぞ、出すぞ。

私の魔王精子、
娘婿の貴様に

いっぱい注いでやるからな。

ほーら出る、

ほーら出る、出る。

魔王の精子、

子種汁を有り難く受け取れ。

ほら出る、

ほら出る、ほーら出る。

我が腰を突き出して、
ほら貴様の一番奥にゝ

ちんぽザーメンをひねりだすぞ

ほれ、しつかり

締め付けて、奉仕せよ！

ほーれ、

イ…くううつつ！

おおく、

出てる、出てる、でておる

我の魔力で作り上げた、

とっても魔力満点の魔王精子、

貴様のケツ穴に

思いつきり吐き捨てて、

ふふっ、

汚しつくしてやったわ

ふううふうう

（嬉しそうな感じで）

おーおーおー、

ふふっ、

何だ貴様、

我に中出しをされた瞬間に、

自分もイキおったのか。

その小さなちんぽから

ヒクヒク痙攣してー

オスの癖にケツ穴を握られて

射精したのがモロ分かりではないか。

ん？

おーおー、

我の魔王精子で、

貴様のそまつな一物…

なかなか、

肥大化して少しは、

見れるようになったではないか

我に汚しつくされ、

私の魔力を受け入れたというのか。

(優しく、あやすように)

ふふっ、

よしよし。

ふふっ、ケツを撫でながら、

ふふっ、

褒めてつかわす。

ちんぽが育ってよかったなー。

私の軍門に下る決意が

ようやくできたということだ

でも、

まだまだこれしきりでは、

子作りには心もとないからな。

我がしつかり

育ててやるから、

その気でいろよ？

我が一人前に育ててる、

うふふ

(トラック④:地下牢でマゾ育成)

(中・近)

ほーら、

調子はどうだ？

勇者よ。

我の魔力を
毎日注ぎ込まれー

ふふっ、
そして地下牢に幽閉され、
日の光も当たらぬところで、
ちんぽを育てられるのは、
さぞかしつらからう

だーが、
ほーら見せてみる。
貴様の耐え抜いた証を。

(嬉しそうに、はしゃぐ)
おーおー、ふふっ、
金玉はずっしりとデカく、
普通のオスよりも
三倍は大きくー

そしてちんぽ竿はー

おーおー、ふふっ、
人間ではあり得ぬサイズの
メガ級ちんぽ竿になりおって

ふふっ、

魔王と言えど惚れ惚れするぞ

(中・密着)
たくましいではないか。
愛らしいなー

ふふっ。
魔王様の寵愛を受けた証として、
ほーらキス、ほーらキス、キス。

(連続キスの回ぐらい)

ちんぼの裏側に、
ほーら魔王様の
ドスケベキスを
くれてやってー

ふふっ、
寵愛を受けている証を
刻み込んでくれるぞ？
ほーれほれ。

(やや右・中)
ん？

なんだ？

ふふっ、娘に会わせろだと？

(復唱する感じで)
あのまんこ穴、
ゆるそうなビッチ穴で、
このちんぼ使って
中出しキメてやるから、
早く食わせろなど、ふふっ、

ふふ、
我の魔力の影響か、
なかなか凶暴になったな

しかし、
魔族の子とはいえ
母親の前で、
よくそのような
ことを言えるものだな。

（悪そうな声で）

まあ、

無理もない〜

この数カ月、ふふっ、

ちんぽを育てるために、

一切射精を許さなかったからな。

（バカにするような感じで）

こーんな

でっかいムラムラ金玉に、

私の魔力を毎日注ぎ込まれー

ふふっ、

そして封じ込まれ、

鬱々とした気分で、

ふふっ、

オナ禁生活をさせられるのは、
さぞつらかっただろうなー。

（やや右・近）

ほらデッカい

金玉をさすってやってー、

このザーメン溜まりまくった
デカ金玉の精子、ふふっ、

我が娘の、

魔界一のまんこの中にー

びゅー

びゅーびゅーびゅー

吐き捨てたいのだなー？

（右・密着）

（ききやき声で）

ほーらほら、

我が娘のまんこは、

とーっても気持ちいいぞ？

こーんなガツチガチに腫らした

デカちゃんぽー、

まんこの奥まで、ふふっ、

ちんぽ出し入れしてー、

溜まりまくった金玉から、

びゅーびゅーびゅーびゅー

射精し犯しつくすのは、

とてつもなく、

気持ちいいぞ？

（右・近）

ほーら、

竿のほうも、

ゆーっくり

あま手コキで挑発してやる。

（復唱する感じで）

ほーら出したい、

ほーら出したい。

小っちゃかった粗チン、

魔王様に

たくさん育ててもらったから、

ギンギンガチガチちゃんぽで

嫁まんこを使いまくって、

中出しキメて、

子作りしてやる

あのビッチまんこ、

俺のザーメンで

孕ませてーふふっ、

魔族子宮を

ボテバラにしてやるーと

ふふっ、

我に注ぎ込まれた魔力のせいで、

性格まで、変わり果てよってからに。

(独り言みたいに)

よい塩梅だな

ふふっ。

だが残念ながらー

試してやらぬと、

大事な娘の、穴倉を

貸してやるわけにはいかな

魔王として、母として、

このちんぽが

しっかりと使えるかどうか、

確かめてやる必要がある。

(中・近)

ほーら、

ふふっ、我とまぐわうか？

今すぐこの拘束を取ってやるから、

我のまんこ、このデカちんぽで、

勝負をするかー？

ふふっ、ヤラせろヤラせろなど、

娘の母親に興奮しよってからに、

穴があれば何でもよいのか？

ふふっ。

まあ良い。

ほーら、

拘束を取ってやったからー

いつでもその

イキたがりちんぽから、

射精ができるぞ？

ただ、

するのであつたら…

ふふ

魔王様のこの、

とーっても強いまんことー

勝負したいであろう？

ただし、

魔王にはしっかり敬意を払い、
尽くせよ。

(中・中)

ほーら、

椅子に座り

ふふっ、

股を開いてやるから、

オスならば、

何をすればいいか、

わかるであろうっふふっ。

勇者として、

まるで姫君の

手の甲に

キスをするように、

我のまんこにも

誓いの口づけをしてみよ。

あいにく、

相手は魔王だなー。

貴様の忠誠心で、

我を感じさせてみる。

(中・近)

おーおー、ふふっ、

しっかりとした口づけとー

我の、ヌレヌレギトギトだった

まんこ穴に、

舌を出し入れして、

おおー、

ペロペロ、ペロペロ、ペロペロ、

従順なものだ、ふふっ。

おー、おー、おー、

ふふっ。

かつて勇者に破られた魔王が、

まんこ穴をほじられ、

おおー

しゃぶられているなど、

なかなか良い光景ではないか。

ほーら、

もっと尽くせ。

我の気持ちいいところ

ギンギン、ピンピンに

ガチガチ勃起したクリを

甘噛みされるのがとても好みだぞ？

ほーらほらほらー

ふふっ、

おーおー、

魔王のクリを

思いつきり歯で締め付けよってからに。

ふふっ、良いのだぞ。

我は魔王であるからな。

痛みも快楽に変えて、

甘受してみようぞ、

おおくふふっ。

(エロいあぎ声 8 秒)

ふふ、

次は穴のほうだ。

全身全霊を持って、

舐めきれよ。

魔王様のまんこは

媚薬入りの、

とーっても熱い

スケベマン汁を

垂らすからな。

全部舐め取って、

この後の、

ふふっ、交尾に備えよ。

おおく、

おまんこ気持ちいい。

まんこ、

自らヒクヒク痙攣させて、

穴を開き、おおく、

奥まで舌を

出し入れされるの、

なかなか良いではないか。

(中・密着)

ほーら、

太ももで首を絞めつけてやるわ。

一切、舌を緩める出ないぞ。

ほーらほらほら。

おおく気持ちいい、

おおく気持ちいい。

我の魔王まんこ、

人類最強のオスに、

ナメナメこ奉仕させるの気持ちいい。

ほら、ほら、ほら。

我がしっぽを

振りながら喜んでおるぞ。

貴様に口奉仕をさせ、

今からまんこ穴から、

思いつきり魔王マン汁をびゅーびゅー

メス射精するの想像して、

興奮し切っておるわ。

ほーら、

我のデカくなった乳首、

自分でつねり上げ、捻り、

そして今から果ててやる。

貴様の首を太ももで

こっやってギューツとねじり込み、

ほーら、

息もさせてもらえない状態で、

このまま我を果てさせてみる。

終わったら私の

このびしょびしょまんこで、
貴様のガチガチちんぽ、
迎え入れてくれるわ。

ほーらいかせろ、

イかせろ、イかせろ。

魔王様のヒクヒクまんこ、
今から大量の魔王汁を出して
イキ果てるから、それでイかせろ。

ほらいク、

ほらいク、ほらいク。

ほーらい口を開けろ。

全部飲み切るのだぞ？

我は、イっくっ！

おおー

出てる、出てる、出てる。

体をビクビク痙攣させて、
まんこ穴開きっぱになって、
ひくひくしながら、

魔王汁、オスに、おおー、

飲ませて

興奮してしまっているぞ？

ふふっ、

なかなか悪くない…ああ。

(中・中)

ふっ、

どうだっ…ふっ。

貴様のちんぽは、

もうガチガチ勃起して、

今すぐにでも女を抱かんと

どうにかかってしまいそうだろう？

ほーら、

私の慈悲(じひ)をくれてやろう。

貴様を押し倒し、

ガチガチになったオスちんぽ、

ほーら、

いったばかりの私の魔王まんこで、

ふふっ、

このちんぽ、可愛がつてくれようぞ。

(中・近)

ほーら入る、

ほーら入る。

魔王の最強おまんこが、

貴様のちんぽ、

どんどん食べてやっているぞ？

ほーら、

先っぽが入って、

ほーら、

ふふっ、どうした？

まだ、

自分の一程度しか入っていないのに、

もう果てそうになっているのか？

オナ禁ばかりさせられていた、

ふふっ、

イキたがりちんぽ。

魔王様のつよつよまんこで
握りしめられて、

それでももう果ててしまうのか？

ほーら、

奥まで

全部咥え込んでやるから、
イクのではないぞ？

上からまんこを降らせて、
ちんぼの根元までー
ふふっ、

ほーれ入ったぞ？

どうした？

何を耐えているのだ？

この強ーいまんこに
ちんぼを入れられただけでー、

ふふっ、

白目を剥いて

イキそうになっているのを
必死で耐えている。

いくら、ちんぼが

強く強力に

なったところで、

早漏では役に立たないではないか。

(やや右・密着)

ほーら、

せめてもの慈悲だ。

ゆーっくりぬいてー、

ほーら、今度はさっきより

穴を強ーしめつけてえー

上から

ゆーっくり、ゆーっくり、
落としてやっているぞ？

ああ、

イキたくない、
イキたくない、射精したくないー

今度

嫁まんこ使って
いっぱい

びゅーびゅーびゅーびゅー
中出しするから、

こんな魔王の

強いだけの

悪そうなまんこ穴にいー
負けたくないーと、

ふふっ、何を言っておるんだ。

ほーらまた、

ゆーっくり抜いて、

今度はほーら、ちょっと早く、
ズーブズブ。

ほーれえ

全部入れたら、

ほーら、

ぬーきぬきしてー、
ほーら、

また腰を落としてー、
ゆーっくりー

パン、パン、パン、パン。
ほーれ、ほーれ
パン、パン、パン、パン。

ふふっ、
どうした？

なに、
顔を背けている。

我にイキ顔を見られるのが
恥ずかしいのか？

こんな低速で、
ちんぽをまんこ穴に
ゴシつけられて
射精をしそうなの、
丸わかりではないか。

言っておくが、
こんな出来損ないのちんぽでは、
娘のまんこに
ご馳走させてやるわけにはいかんな。

我のまんこで
しっかり鍛えてやる

ほーらほーら、
パンパン、パンパン、パンパン。

ん？どうした？
我は少しも
本気を出していないぞ？

単調なマンフリで、
貴様のちんぽを強く握りしめながら、

上下に

動かしてやっているだけだ。

ん？

イクのか？

こんな短小な腰の振り方で
イカされてしまったては、

オスとしての面目が立たぬぞ。

（右・密着）

ほーら、

腰の速度を上げて、

耐えろ、耐えろ、耐えろ。

娘の母親に、

魔王まんに、

即負けなどしたら恥ずかしくて、

一生娘のまんななど

貸してやらぬぞ？

ほーら、果てるな、

果てるな、

果てる…なっ！

ふん！

魔王様のまんに

粗相をしておつて。

こんな風に

びゅーびゅーびゅーびゅー
流し込んで、失礼な奴だ。

(中・近)

ふふっ、まあ良い。

今日は貴様のちんぽの
レベルが上がるまで、

我のまんこで

使い込んでやるからな。

魔王を倒せる

最強のちんぽに育ててやる

(トラック⑤再び魔王の寝室で)

(中・中)

ほーらどうした？

魔王様の寝室に、

自ら来たのだろうか？

何をしたいのか、

我にはわかっておるぞ

貴様の口から言ってみろ。

ふふっ、そうか。

我とまた、まぐわいたいのか。

魔王である娘の母親の

我とまぐわいたいなど、

大した勇者様だ

まあ、

貴様のちんぽを

育てるために、

毎日毎日、

我のつよよまんこで、

ちんぽのレベル上げをしていたら…

ふふっ、

娘まんこで

交尾をしても

全然ちんぽが

気持ちよくなれなくてー、

我のまんこではないと、

射精が出来なくなってしまうた

嫁マンコで

不能の貴様に

魔王様の慈悲をくれてやる

ほーら、

早く出せよ

そのガチガチ勃起したちんぽ、

我のまんこで食い尽くしてやる。

娘のゆるまんこじゃ、

射精が出来なくなってしまうた

バカちんぽに、

魔王として、母親として、

しーっかり折檻をくれてやるぞ？

ほーら、

まんこを開いてやっているから、

今からどうしなくては

いけないかわかるか？

(中・近)

ふふっ、そうだ、ちんぽの先っぽで、

我のまんこ穴にほら、

ゆっくりゆっくりキスをして、

ほら、我目をしっかり見よ。

今から貴様のちんぽを
食べてくれる魔王様だぞ？

（中・密着）

ほーら、

ふふっ、

キス、キス、キスだ。

（激しいキスフェラ10秒）

まるで

貪り食うぐらいの

激しいキスをしてー

ふふっ、

貴様のことを

食べつくしてくれる、

悪い魔王様だぞ？

（中・近）

ん？ふふっ、

何だ？

ちんぽを

ガチガチ勃起させてー、

まんこにゆーっくり、

ゆーっくり侵入をしてきて、

我を自分のものに

したいのか？

すでに娘をくれてやったというのに、

我のことも欲しがるなど、

ふふっ、生意気な勇者様だ。

ほーら、

しっかりちんぽを入れてー
我のことを倒してみろ。

ほら、ほら、ほら。

ふうふう！

無礼ものが…

ズズズブツと

入れた瞬間に射精をしょって。

そんなもので、

魔王様のまんこを

倒せるわけないであろう？

ほーら、

魔王のつよつよまんこで

ちんぽ握りつぶして、

このままねじり切ってやろうか。

娘に愛想をつかして、

その母親の魔王まんこでしか

気持ちよくなれなくなった

粗末なゴミちんぽは、

ねじり切ってやろうか？

ほーれほれほれー。

おーおー、ギューって、

魔王まんこの中で、

ちんぽ握り込まれたら、

また、

ガチガチになって、

ふふっ、

魔王まんこに

まだ、立ち向かうつもりなのか？

（中・密着）

ほーら、

我のでっかいパイオツで、

貴様を窒息死できるように、

ほら、抱きしめてやって、

ほーら、

まんこを思いっきり振って、

ほれ、ほれ、ほれー。

貴様のちんぽ、

もっと味わわせてみろ。

我の魔王まんこに、

もっと食べつくされるほどの

快楽を与えてみろ。

そうすればほーら、

魔王様が、

貴様の軍門に

落ちてくれるかもしれんぞ？

ほれ、

ほれ、ほれー。

（リズミカルに応援するような感じで）

おお、出し入れして、

チンパコパンパンして、

ほーらほらほらー、

頑張れ、頑張れ、頑張れ。

魔王様のまんこを倒せるように、

しっかりチン振りを頑張れ。

ほーらほらほら、ふーっ。

必死で腰を振って、

魔王まんこの中で、

必死に耐え抜いているちんぽ。

ふふっ、

でも、魔王様のまんこも、

もうすぐ倒せるはずだ。

ちんぽ頑張れ、ちんぽ頑張れと、

ふふっ、自分で励ましているな。

（やや左・密着）

ふふっ、

魔王のまんこが

こんなレベルなわけないだろう？

ほーら、思いっきりギューって

締め付けながら、

熱くてトロトロなの、

いーっぱい来ちゃうぞ？

（左・密着）

（復唱する感じで）

おおーちんぽとろける、

おおーちんぽとろける。

スケベなまんこ穴で、

熱々お肉オナホで

おちんぽ溶かされて、

ギューギュー締め付けながら、

負ける、負ける、負けりゅー。

ほーら負ける。

ほらまたギューッと抱きしめて…

ほら、だ、せっ！

おおー

出てる、出てる、出てる。

だが、

まだだ！

出したばかりのちんぽ。

我のつよつよ魔王まんどこでゴシつけて、

ほーらどうだ？

耐えられるか？

魔王様の

♡ターン連続攻撃だぞ？

射精したばかりのちんぽを

思いつき握り込まれ、

ちんぽをねじられ、

ゴシゴシ、ゴシゴシ、

ゴシゴシされておるぞ？

（中・近）

ほーら顔を見せろ。

貴様の情けなく、ふふっ、

絶望した顔が見たいのだ。

（中・密着）

ほーら

きしゅをしながら、

（エロキスしながら）

ほーら、

また果てろ、

また果てろ、また果てろ。

（キスフェラ10秒）

お情けで

気持ちいいまんこ、

しーっかり

中出しできるように、

ほら、

少しでも緩めてやるから、

ほら出せ、出せ、出せ。

ほーら、果てろ。

おーおー

出ておる、出ておる、出ておる。

ふふっ、

甲斐性がないくせに、

子種汁をびゅーびゅーびゅーびゅー、

大量ザーメン子種汁を

吐き捨てよってからに。

ふふっ、我のまんこは

この程度では倒せぬぞ？

(中・近)

ん？おーおー、ふふっ、

射精したばかりのちんぽ。

自らの

魔法力を注ぎ込み、

ガチガチ勃起させて、

おおー

貫いておる、

貫いておる

貫いておる。

我の魔王まんこ、

イかせ切るように

倒しきるように、

必死こいてつよちんぽにして、

逆らってきておる。

ふふ

よいぞ

我と貴様はそういう関係だ。

お互い倒し倒され、

そしてどちらかが

勝者になるまで

絶対に辞められぬ。

ほーら、

我も思いっきりまん膺力を上げて、

貴様のデカちんぽを締め付けて、

ほーら

イかせてやれるように、

最強の魔王まんこに

なっておるぞ。

ん？

勝てる、勝てる、勝てる。

ふふっ、

こんなに必死で腰振って、

魔王のエロ顔を拝みながら、

中出しキメて、

子宮にザーメン届けてやると、

ふふっ、

なかなかに勇ましいではないか。

だが、この程度で

魔王が倒せると思うんじゃないぞ。

ほーら、

我のまんこの本気でー、

ちんぽをほら、

ねぶり込んでー、ふふっ、

まだ足りぬか。

ほーらそれでは、

我のマン壁、子宮口を開いてー、

ほーら、

これでちんぽを、入れ切ってー、

ほーらどうだ？ふふっ。

400年物の魔王の

子作り子宮だぞ？

今まで数度としか

開いたことない、

魔界の中で絶品の肉穴だ。

ここにほら、

貴様のちんぽの亀頭を

ゴシつけて、

ほーら出せ、

ほーら出せ、ほーら出せー。

魔王のまんこ、

子作り穴に

びゅーびゅーびゅーびゅーする射精は
気持ちいいぞ？

魔王の子作り穴に、
ザーメン

いーっぱいびゅーびゅーするとー、

ふふっ、それで、

魔王のわるーい子宮を退治して、
孕ませることができるとぞ？

（やや右・密着）

ほーら出せ、

ほーら出せ、ほーら出せー。

貴様の勇者のちんぽが
果てる 때가来たぞ？

（右・密着）

ほーら、

さーん。

ほれ

出して、入れて、出して、入れて。

魔王の悪ーいまんこをー、
退治できるように頑張れー。

ほーら、

にーい。

（復唱する感じで）

ふふっ、おーおー

ちんちん

負けちゃう、負けちゃう、負けちゃう。

悪ーい魔王のまんこに、

僕のちんぽが退治されちゃうー。

おちんちん射精した瞬間に、
ゼーンぶ搾り取られて、
負けちゃうー

ふふっ。正解だ。

いーち。

ほーら出せ

ほーら出せ、ほーら出せ。

腰を引こうとしても
絶対に逃がさぬ。

貴様のちんぽは
逃げることも敵わぬのだから。

我のまんこの中で、
思いつき中出しをキメてみる。

ほらゼロ、

ほらゼロ、ほらゼロ。

ほーら、

イキ果てろ、勇者よ。

出…せっ！

おおー

出てる、出てる、出てる。

ふふっ

びゅーびゅー

びゅーびゅー、びゅーびゅー。

魔王のまんこ子宮にー、
ふふっ、子作りザーメン射精など、

恐れを知らぬな
人間よ。

(やや右・密着)
ほーら、
顔を見せろ。ふふっ。

(中・近)
トロトロにどろけ切った、
射精直後のエロ顔、

(中・密着)
ほーら
我がキスで、
どろけさせてー
(キスフェラ 5秒)

ふふっ、
もっともっと
気持ちよくしてくれるぞ。
ほーらほらほらー、ふふっ。
(激しいキスフェラ 10秒)

(中・近)
良いか？
我をしつかり見ろ。
貴様のこと、
これからももっと、
苦しめてくれるからな。

我は悪い魔王様だから、
貴様のこと、
絶対人逃がしたりはせぬ。

(左・密着)

(さきやき声で)

ふふっ、

我の軍門に下れ、勇者。
さすれば世界の半分か

(ゆっくりさきやき声で)

ふふっ、

もしくはこの魔王様を
くれてやる。

勇者よ

(長め)

ふふふっ。